

令和5年度（2023年度）上期の空知管内における観光入込客数調査結果の概要

令和6年（2024年）2月2日

空知総合振興局産業振興部商工労働観光課

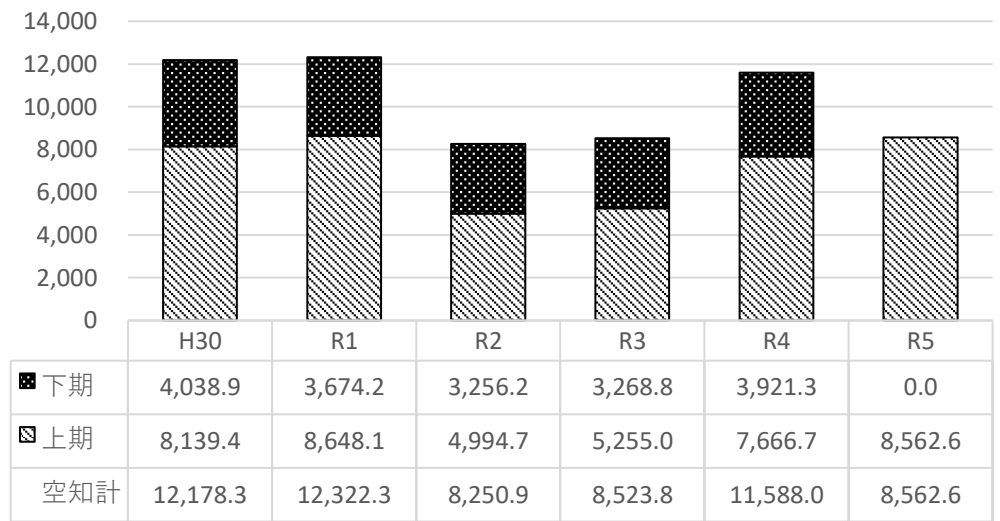
1. 令和5年度（2023年度）上期の管内観光入込客数

(1) 全体

令和5年度（2023年度）上期の空知管内における観光入込客数は、8,562,600人となり、前年度同期の7,666,700人から895,900人（+11.7%）増加した。

空知管内年度別推移

(単位：千人)



(単位：千人)

	H30	R1	R2	R3	R4	R4上期	R5上期	対前年度増減	対前年度同期比	構成比
空知入込客数	12,178.3	12,322.3	8,250.9	8,523.8	11,588.0	7,666.7	8,562.6	895.9	111.7%	—
うち道外客	963.9	1,005.4	432.5	426.2	758.0	537.5	730.8	193.3	136.0%	8.5%
うち道内客	11,214.4	11,316.9	7,818.4	8,097.6	10,830.0	7,129.2	7,831.8	702.6	109.9%	91.5%
うち日帰り客	11,692.2	11,872.0	7,992.4	8,217.3	11,208.8	7,435.9	8,311.5	875.6	111.8%	97.1%
うち宿泊客	486.1	450.3	258.5	306.5	379.2	230.8	251.1	20.3	108.8%	2.9%
空知宿泊客延数	551.9	488.5	276.6	325.2	397.5	244.8	262.5	17.7	107.2%	—
全道シェア	834.8%	856.4%	1017.8%	999.1%	947.5%	1012.8%	—	—	—	—
全道入込客数	145,880.7	143,879.9	81,062.9	85,311.9	122,298.4	75,695.9	—	—	—	—

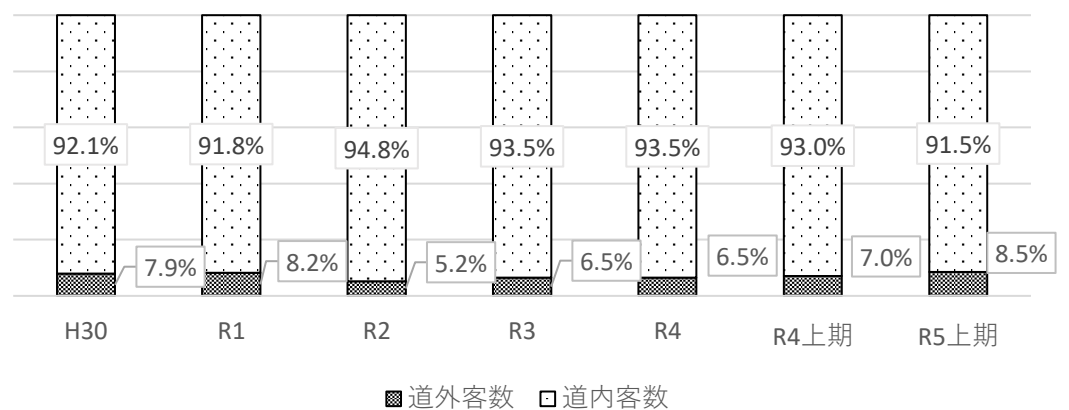
※R5上期全道分は集計中

(2) 道外・道内客数別

道外客数は、730,800人となり、前年度同期に比べ193,300人（36.0%）増加、道内客数も7,831,800人となり、前年度同期に比べ702,600人（9.9%）増加した。

構成比で見ると、道外客8.5%、道内客91.5%となっており、依然として道内客の構成が高い状態となった。

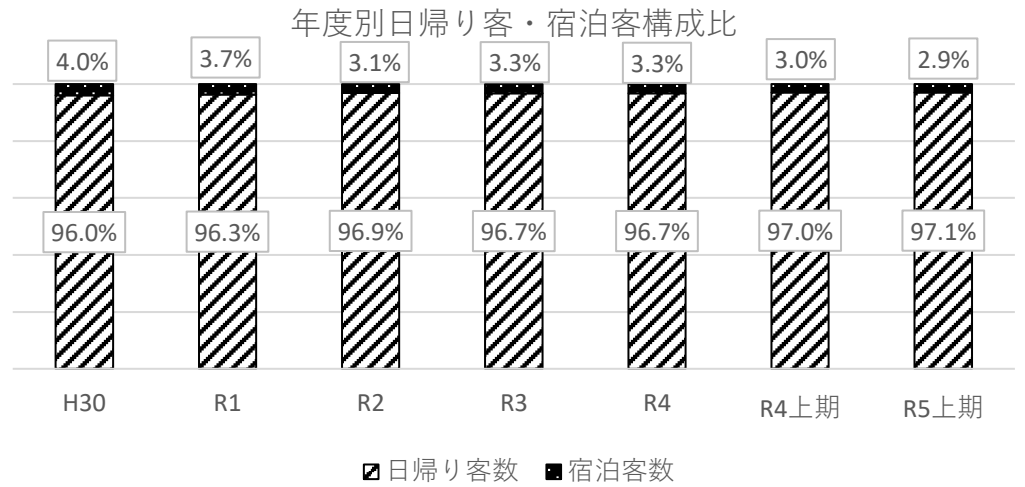
年度別道外・道内客構成比



(3) 日帰り・宿泊客数別

日帰り客数は8,311,500人となり、前年度同期に比べ875,600人（11.8%）増加し、また宿泊客数も251,100人で、前年度同期に比べ20,300人（8.8%）増加した。

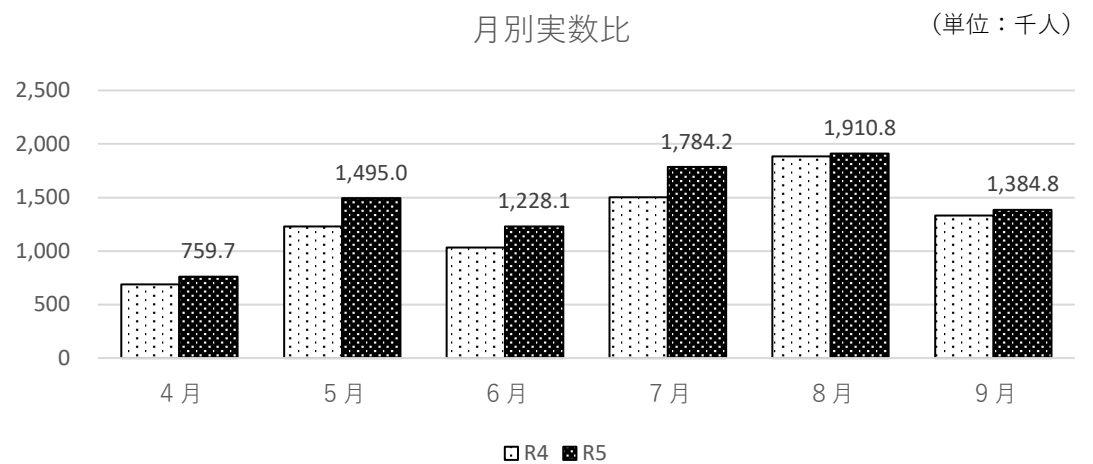
構成比で見ると、日帰り客97.1%、宿泊客2.9%となっており、日帰り客が主体となっている。



(4) 月別

月別に見ると、8月の入込客数が最も多く、1,910,800人となり、上期全体の22.3%を占めている。

次いで7月1,784,200人、5月1,495,000人と続き、主に夏休み時期（7～8月）に集中した。



(単位：千人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計
令和5年度上期（入込客数）	759.7	1,495.0	1,228.1	1,784.2	1,910.8	1,384.8	8,562.6
構成比	8.9%	17.5%	14.3%	20.8%	22.3%	16.2%	—
対前年度比	110.6%	121.7%	118.8%	118.9%	101.4%	103.9%	111.7%
令和4年度上期（入込客数）	686.8	1,228.4	1,034.1	1,500.2	1,884.0	1,333.2	7,666.7

2. まとめ

令和5年度（2023年度）上期の管内の観光入込客数は、前年度同期と比較すると11.7%の増加となり、新型コロナウイルスの感染拡大前の令和元年度（2019年度）同期の入込客数と比較しても、ほぼ同水準まで回復した。

今年度に入ってから、新型コロナウイルス感染症に係る行動制限がなかったほか、国や道、市町による旅行支援事業の実施、各種イベントが再開されたことに加え、5月8日からの新型コロナウイルス感染症の5類移行時期が道内における行楽時期と重なったことも全体的な増加に繋がったと考えられる。



3. 参考

観光入込客数上位3位

	市町名	入込客数 (千人)	対前年度比 (%)	主 な 増 減 理 由
1	長沼町	1,440.4	116.4	コロナ禍が終わり様々な制限がなくなり町外から訪れる観光客が増加したこと、また、道の駅直売所等施設のリニューアルをしたことも増加の要因と考えられる。 ※参考：昨年度上期1位
2	砂川市	972.2	129.6	前年と比べハイウェイオアシス館、北海道子どもの国、砂川オアシスパークや化粧品製造小売を行うSHIROで入込客数が大きく増加し、菓子店舗などでも入込が増えた地点があることから全体的に入込客数が増加したものの。 ※参考：昨年度上期3位
3	芦別市	756.2	125.7	新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが5類感染症に移行された事に伴い、イベントが再開されたことや旅行需要の拡大により、本市の観光施設である道の駅、スターライトホテル及び三段滝公園への入込客数が増加したものの。 ※参考：昨年度上期5位